



# 初当選後3年余、こんなことに 取り組んで参りました。

県議会議員 扶川 敦

今任期は、県土整備、防災、総務、経済、環境、特定交通の各委員会に所属しました。しかし、文教・厚生と人権・少子・高齢化の委員会には、所属しませんでしたので、福祉や教育関係の追及は、党の他の議員にお願いしました。

## <清潔な県政をめざして>

- 汚職問題調査団報告書の中身を具体化させるため、東京地検から元知事汚職事件の**刑事確定記録**を入手するために奔走。入手した記録から、ネットと共産党共同の**報告書**を作成。
- 刑事確定記録に記述された談合の供述を元に、県に**損害賠償請求をせよと要求**。県は実施を怠ったが、オンブズマンが独自に請求し、ゼネコンから、6500万円が県に返却された。
- 県議会の倫理条例を起草**し、議案提案。全国からみても先進的な内容であったが、自民系会派など反対で否決。
- 入札制度改革**へ、長野県、宮城県、横須賀市など先進地を視察し、一般競争入札制度の拡充を一貫して要求。県の制度改革を促進した。
- 公益通報制度**で当初内部に置かれていた窓口の改善を1年間にわたり要求。外部の弁護士への窓口設置を実現。
- 働きかけ記録制度**で、「威圧的な言動」を伴う働きかけを記録するよう改善させる。
- 天下り規制**をするようねばり強く議論。県も公共事業に関係する部門に限定したものの、一定の規制に踏み切る。
- 県議会の視察改善**へ団としての要望を作成して提出。
- 中央広域環境施設組合**の設置した炉に関連し「地元対策費」が出された問題を追及。

## <無駄遣いを無くすために>

- 流域下水道事業見直し**を再三提言。市町村設置型の合併処理浄化槽促進を提言。住民運動にも加わって、世論を喚起した。板野町長選挙で政策協定に盛り込み、見直しへの道が開かれた。
- 中央広域環境施設組合**の炉については、過大であると議員当選以前から住民とともに運動。結果として炉の規模が一定縮小されて、その分節約となった。J F Eの地元対策費問題を追及した翌年、焼却炉に対する3億円の県単補助金制度は廃止された。
- 談合防止**の議論と制度改革は、落札率低下につながった。元知事汚職事件当時と比べて年間40億円以上の「節約」となっている。
- 県警捜査報償費問題**を再三追及。議論が続く中、捜査報償費は、大きく減少した。
- 鉄道高架問題**では、都市計画審議会で二軒屋駅裏住民と連携し、区画整理事業促進にまつたをかける付帯意見書をつけさせた。

## <災害から県民の安全を守るために>

- 全県下の**台風被災地**を調査し、各種施策を提言。
  - 特に県が創設した**住宅再建支援制度**を**弾力的に運用**して一昨年の台風23号の床上浸水被害者を救済するよう要求。上京して内閣府に何度も足を運んで県の姿勢をたまたした。県下各地の自治体が積極的に制度を運用するよう、直接情報提供するなど奔走した。
  - 大雨で住宅裏のがけが崩れ危険にさらされている現地を調査。議会で**県単独急傾斜地崩壊対策事業**の予算増額を求めた。結果として、県単独事業が軒並みカットされるなか、県単独急傾斜地崩壊対策事業の予算は、2年続けて前年並みを確保。直接視察調査した阿南、板野、脇町、穴吹、井川などの急傾斜地で工事が実現した。
  - 河川改修や土砂の堆積除去**を要望。工事が実現されたところも各地に。
  - 南海地震対策**で住宅耐震化の先進地である静岡や地震被害を受けた新潟の被災地を調査し、各種の提言をした。
  - 特に静岡で30億円規模で作られている**地震防災対策の県単独総合補助金制度**のようなものを県でも創設するよう要求。静岡のように家具の固定や耐震ベッドにも補助をつくることも要求した。議論を通じて、県の補助金制度の若干の改善を促進した。
  - 雨量計やポンプ車**を増やすことを提案。委員会での前向きな答弁はなかったが、その後県は実施した。
  - 県として**地震防災対策アクションプラン**を作成するよう提案。当初県は、不必要とされていたが、結局「行動計画」を作成した。
  - 「行動計画」のなかで**住宅耐震化**の目標数値が設定されていない事実を指摘して県の消極姿勢を追及。
  - アスベスト問題とマンションの耐震偽装問題**を追及。県の早期対応を促進した。
- ## <犯罪や事故防止など>
- 地元板野町を中心に、県道関係の**信号機設置や水銀灯、カーブミラー設置、路面改善**などを要望。各地で実現された。
  - 上板町の**高瀬駐在所統廃合問題**を議論。住民の合意をとることおよび代替措置を求めた。
  - 脇町で**旧陸軍弾薬庫跡**に弾薬が埋設放置されている問題で県議会意見書採択へ奔走し、実現した。
  - 伊方原発**でのプルサーマル問題を県議会に取り上げる。
- ## <環境を守る取り組み>
- 第十堰可動化**に一貫して**反対**。飯泉知事の公約遵守を要求して議論。
  - 間伐促進**による森林保全へ取り組み強化を一貫して要求。

- 剣山の鹿**による稀少植物や樹木の被害で現地を調査し、対策を要求。**鳥獣被害**の予算が増額されることに寄与した。
- 旧市場町、阿波町、井川町の**産業廃棄物不法投棄**(疑惑)問題を追及。鳴門市板東谷や小松島市の**残土不法処理**の問題では、業者の告発や行政指導による改善など具体的な成果をあげる。
- 残土処理の規制**に関し、先進地の取り組みを紹介して実効性のある**県生活環境保全条例**となるよう議論。当初知事への届出が審議会から答申されていたものが、許可制になるなど、制度充実に寄与した。
- 鳴門市と板野町にまたがる**畜産業者による乱開発**が行われた問題で県の姿勢を追及。住民運動とも連携して改善へ展望が開ける。
- 北島町で**東邦テナックスの汚泥**が埋設されていた問題で県の姿勢を追及。
- 県土整備委員会**で、**風力・太陽光発電促進**を議論。

## <平和を守る問題>

- 米軍機低空飛行問題**で、県として状況把握し国に中止させるよう求めよと議論。
- 松茂への**米軍機緊着陸**事件や**陸上自衛隊ヘリ部隊配備計画**など問題がおこるたびに県議会できりあげたりビラで町民に訴えるなどの活動を行った。
- 自衛隊の**イラク**からの撤退を求める運動、**憲法9条**を守る運動、**核兵器廃絶**を求める運動に参加。

## <県民のくらしを守る問題>

- 滞納整理機構**創設にあたり、県民の生業やくらしを脅かすような強引な差し押さえなどは、しないよう要求。県も配慮する旨答弁した。
- 光洋シーリングテクノ**の青年労働者の正規雇用へ、労組や国会での取り組みと連携。委員会では、県として努力するよう要求。県も積極的に仲介に動いた。
- 障害者の小規模作業所**を視察し、県に補助金増額を要望。

## <その他>

- 市町村合併**で、10年後以降の財政シミュレーションがされていないと指摘。旧土成町では、住民投票を求める署名がふみにじられたため、議案に反対した。
- 指定管理者制度**導入に当たり情報公開制度の導入を求めた。その後実現した。
- 県議選挙区定数問題**では、格差2倍以内の人口比例原則を主張して検討委員会委員としてがんばったが、自民系会派が、徳島選挙区の定数減を押し切った。
- 徳島化製への3億円補助金**見直しを要求。
- 同和対策**が事実上継続していた**就労相談員問題**を追及。県として見直すことに。
- 男女共同参画問題**を本会議で議論。  
その他……